

令和7年度自己評価シート(最終)

学校名 三次市立三次中学校

【経営理念】

ミッション(使命):「生徒の進路選択の幅の拡大と希望進路の実現」を図り、持続可能な地域を形成する人材を育成する。

学校教育目標 : 自律と貢献の志を持ち、主体的に進路を選択する生徒の育成

～ 一所懸命が好き！ 夢と志を持ち 輝く 私たち ～

達成度	達成値	× 100	評価	A ≥ 100
	目標値			80 ≤ B < 100
				60 ≤ C < 80
				D < 60

中期経営目標							
	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	目標値	評価	達成状況	担当部等
確かな学力の育成	1 学力の定着・向上						
	基礎学力の定着・向上	①市立三次中授業スタイル(SMP)を基盤とした学習者基点の授業研究の実施, 研究成果を各教科へ広げる取組 ②学力調査, 定期試験を目標, 検証軸とした短期 PDCA サイクルによる取組 ・課題把握に基づく具体的目標設定と取組 ③課題発見・解決過程のある単元づくりの推進	・定期試験における知識・技能, 思考・判断・表現の観点達成率 ・市学力検査(平均正答率と30%未満生徒の割合)	各教科の知識・技能60%以上, 思考・判断・表現力50%以上 実施教科全てで経年比較において前年度を超える, 30%未満生徒のべ7%	C	・定期試験における観点定着状況(3年生のみ学年末試験までの数値) 知識・技能 20/50, 思考・判断・表現 25/50 ・市学力調査経年比で前年を上まわった教科は5/5, ・30%未満の生徒: 1年13.9%, 2年5.8%	教務部
	育成すべき資質・能力の向上	①特に育成を目指す資質・能力(「3つの力」)の継続的な育成・向上 ・育成すべき資質・能力を, 生徒教職員が共有した各教科・領域・行事等への取組 ・各教科・領域・行事等への取組における変容の検証 ②各種検定, コンクールへの応募・挑戦 ・各種検定(漢検・数検・英検等)やコンクール等への挑戦 ・計画的なコンクールへの応募	・自校の質問紙「3つの力アンケート」 ・総合質問紙調査(コミュニケーション能力・協調性・主体性) ・各種検定受検生徒の割合	肯定的評価80%以上 3つの資質・能力にかかわる項目, 全国平均以上 延べ受検率50%以上	A	「3つのアンケート」: 6項目すべてにおいて80%以上(6月, 10月, 2月実施分) 総合質問紙調査: 全国平均と比べて主体性は-3.3, 協調性-3.0, コミュニケーション能力-2.8 各種検定受検者数: 漢字検定18名, 英語検定88名, 数学検定は14名受験予定	

【評価結果の分析】

- ・定期試験における観点達成率について, 各教科の知識・技能が60%以上, 思考力・判断力・表現力が50%以上になった教科・学年はそれぞれ20/50, 25/50となり知識・技能が4割, 思考力・判断力・表現力が5割達成となった。
- ・今年度も思考力・判断力・表現力よりも知識・技能の達成率が低い結果であった。また1・2年生においては, 両観点において1学期よりも2学期の方が, 達成率が低くなった。これまでの課題でもあった学習習慣が身につけていないことが考えられ, 基礎的・基本的な知識の定着が薄いと考えられる。
- ・三次市学力到達度調査においてはすべての教科において市学力調査経年比で前年度を上回った。
- ・総合質問紙調査(i-check)では, すべての項目において全国平均を下回った。

【今後の改善方策】

- ・引き続き各教科での授業改善を行っていく。学力差が大きく2極化していること, 学習意欲にも差が出ていることから一斉指導が難しい現状もあり, 習熟度別学習や自由進度学習等授業形態や進め方をどの授業においても取り入れていくことが必要になる。来年度に向けて各教科においてどの時期の, どの単元において実施していくかを計画的に考えておく必要がある。
- ・各種検定について, 引き続き積極的な働きかけを行っていく。

2 社会性, 自己認識の向上							
豊かな心の育成	生徒指導諸問題の未然防止	①生徒指導規程の周知徹底と一貫指導 ・生徒指導規程の全家庭への配布, 学校総会等での説明 ・生徒指導規程をもとにした全教職員での統一的な生徒対応(特別な指導を含む)	・問題行動の状況と対応(前年度比較)	昨年度以下	B	・いじめ認知8件(昨年度, 同時期3件) ・不登校生徒数6名(昨年度, 同時期9名) 暴力行為19件(昨年同時期5件)	生徒指導部
		②生徒理解と即時の組織的な対応 ・教育相談委員会, 生徒指導部会の定例化 ・スクールカウンセラーの積極的な活用 ・各学期における教育相談ウィーク及び生徒・保護者アンケートの実施 ・全職員による校内巡回及び生徒への肯定的な声かけ	・不登校生徒数	昨年度以下			
			・諸問題認知解決指導100%	100%			
	生徒会活動の活性化	①日常的な委員会活動の充実 ・「みよっ子あいさつ運動」の実施 ・生徒会各委員会から2項目以上の企画提案 ・生徒会執行部会の定例化(週1回) ・部活動部長会の定例化(月1回) ②人間磨きの場としての部活動, 放課後活動 ・指導者の積極的参加と指導 ・生徒が自ら考え実行, 反省できる活動	・委員会活動実施状況(各委員会からの企画, 実施)	各委員会1回以上	A	・各委員会の取組 ①学級委員会→あいさつ運動, 臨時生徒総会, 全校朝会の運営 ②生活委員会→あいさつ運動・服装点検 ③図書委員会→本の貸出, 本の紹介放送・掲示, ブックチャレンジ習慣の設定 ④体育委員会→昼休憩ボール貸出, 全校レク企画 ⑤文化委員会→給食放送 ・文化祭の運営 ・「生徒会や学校行事に積極的に取り組んでいる」90.3% ・総合質問紙調査各項目の肯定的評価 ・計画性55.8% ・目標設定81.4% ・自己認識74.6% ・社会性75.2%	生徒指導部
			・生徒満足度	肯定的評価80%以上			
			・総合質問紙調査(計画性・目標設定, 自己認識・社会性)	各項目80%以上			

【評価結果の分析】

- ・生徒指導上の諸課題については, 19件の暴力行為が発生した。特定の生徒が何度も繰り返す状況でお互いのコミュニケーションの取り方が起因しており, 暴力は絶対にいけないということ共に相手の気持ちを考えた行動をとることを継続して指導している。休憩時間の各フロアの見回りや, 継続して本人や全体に指導を行うことで, 他の生徒指導上の諸課題の未然防止に努めていく。
- ・不登校については昨年度に比べ減少している。内訳は1年生1名, 2年生2名, 3年生3名であり, すべて昨年度から継続している状況である。また長期欠席の生徒が2学期から増え始めている。また, 保護者との連携が円滑に図れないケースもある。
- ・いじめについては, 暴力行為の発端となったいじめや, 教室内で言葉によるいじめを認知した。保護者を含めて指導を行うと共に, 今後も指導を継続していく必要がある。
- ・生徒会活動については, 来年度の合併に向けて, 生徒会交流会を企画し, 来年度の運営がスムーズに行われるよう図った。朝会に向けて意欲的に取り組んでいる。しかし, 取組について生徒全体に周知できていない場面が見られ, さらに生徒会全体で取り組んでいくことで効果が発揮されると思われる。

【今後の改善方策】

- ・生徒指導の諸課題においては, 今後も各フロアの見回りや定期的な教育相談等で生徒の様子を把握すると共に, 些細な変化についても見逃さないようにしていく。生徒会委員会中や放課後に校内で窃盗事案が起きたので, 生徒の動向の把握や物の管理方法について工夫をしていく必要がある。また思いやりの気持ちや相手の立場に立って考える力を育成するため, 道徳の授業の充実や行事・日々の授業・部活動等の取組をさらに発展していくよう意識し, 取り組みを行う。
- ・不登校生徒および長期欠席の生徒については, 学年会が中心となって家庭訪問等を行っているが, 校務運営委員会で情報交換を定期的に行い, 必要に応じて個別のケース会議を開きながら組織的に取り組んでいく。
- ・いじめ認知については, 2・3学期も定期的なアンケートを実施し, 生徒全員の面談を実施していく。また生徒の些細な変化を見逃さないように, 教員間で連携を密に図り取り組んでいく。
- ・生徒会活動を充実させるために, これまで通り執行部会を定期的開催していく。また, 学校行事等でも生徒会を中心に生徒が自主的・主体的に活動できる場面を設け, 生徒の自己肯定感や自己有用感の育成に努めていく。

3 自立的な生活習慣の定着と体力の向上						
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の充実	① 生活づくり週間の取組の実施 ・定期試験期間中に生活づくり週間の取組を行う。(起床時刻、就寝時刻、学習開始時刻の三点と、学習時間、メディア利用時間、朝ごはん摂取) ②①の結果について資料を作成し、保護者啓発を行う。 ③みよし学園健康教育部会の取組を三次中学校区で共通して実施する。	三点固定が定着した生徒の割合(生活アンケート)	70%以上	B	生活リズムの確立についての資料(三角コーン)等を利用し指導を行ったが利用時間の短縮には至っていない。 「三点固定の定着」69.0% 「メディア利用時間の短縮に努めている」46.9%
	健康安全意識と体力の向上	①体力づくりの工夫・充実 ○保健体育の授業における工夫・充実 ・主運動と関連付いた体づくり運動の計画的実践 ・新体力テストのフィードバックと個々の体力に応じた運動プログラムづくり ○運動部活動における体力づくり ②安全教育の工夫・充実 ・委員会等を活用したけがの予防に係る安全指導	・体力・運動能力調査(国・県平均以上の生徒割合) ・スポーツ振興センター災害共済利用割合	B評価以上の生徒が50%以上 前年度比+10%以内		
					A	4月に実施した体力・運動能力調査の結果(B評価以上の生徒の割合):44.4% 男子26.1% 女子62.7% スポーツ振興センター災害共済利用件数(1月末現在) 12件 (R7年度22件)

【評価結果の分析】

- ・期末試験期間中に行った生活アンケートでのメディア使用3時間以上の割合は1学期は23.7%。2学期については24.1%であった。「スマホの利用時間が多く、勉強時間が少なかった。」「少し寝るのが遅くなって日中眠たい日があった。勉強時間を増やすのはもちろんだけど睡眠時間は削らないように生活リズムを整えていきたい。」等自身の生活習慣を振り返る回答も多くみられた。
- ・「メディア使用時間の短縮に努めているか」の質問では、生徒53.1%、保護者69.1%が否定的な回答を示している。メディアコントロールについての危機意識が、生徒保護者ともにあると考えられる。
- ・1月末までのスポーツ振興センター災害給付金の対象件数は12件。1月末までの申請については運動時の負傷であり、休憩時間中の大きなけがは起きていない。
- ・体力・運動能力調査において、全体での総合評価B以上の生徒の割合は、44.4%であり目標値に達していない。男女別でみると全学年女子が62.7%、全学年男子が26.1%であり、昨年度に比べ女子の割合が下がり、男子の割合が上がってはいるが、全体的には女子の体力の方が高い傾向にある。
- ・4月に実施した新体力テストの結果をもとにトレーニング計画を立案し、部活動や家庭でのトレーニングにつなげ、体育の授業において、それぞれの課題に応じた体力を高める運動(体育の授業初めに主運動と関連付けた運動)を継続的に行っている。また、2学期後半にはトレーニング計画の中間評価として新体力テストの再測定を実施し今後のトレーニング意欲向上にもつなげている。

【今後の改善方策】

- ・委員会活動等を活用して生徒の自主的・実践的な活動につなげる取り組みを進める。
- ・小学校とも連携する中で、メディア視聴以外の時間の過ごし方を考えたり充実させたりすることが必要であると考えている。人と関わる楽しみやメディア以外の親子でのやりとりを充実させること等も視点に置き、PTAと継続して連携、啓発を行っていく。
- ・今年度より1・2年生は男女共修で授業を行っている。共修の中でも体力差や課題に応じた取組を行う事で体力向上につなげるとともに、運動の楽しさを実感できるような指導の工夫を行い、日常生活において自ら運動に親しむことのできる態度を育てていく。
- ・新体力テストの再測定結果から各自の目標やトレーニングの見直しを行わせ、主体的に体力づくりに取り組ませる。

4 学校・家庭・地域が連携した「魅力ある学校づくり」の推進							
信頼される学校	小中一貫教育の充実	①校区を教材化した、まちガイド実施を柱とした教育課程の展開 ②小学校と連携した児童生徒交流活動の計画実施	・オリジナルカリキュラムの生徒・教職員満足度	70%	A	全学年で総合的な学習の時間で、地域の方々を講師に迎えて地域を教材化した学習を行った。 「学校生活は楽しい」生徒 94.6% ・小中学校合同のあいさつ運動や一斉ボランティア清掃活動や出前授業を行うことができた。 「ペアやグループ活動に積極的だ」生徒 86.7%	総務部
			・オリジナルカリキュラム実施率(まちガイド展開プログラム)	全学年実施			
	学校への満足度・信頼度の向上	①学校、学年(学級)、保健、生徒指導等の各種通信の計画発刊とホームページ更新 ・月1回以上 ②各種メディアを通じた積極的情報発信 ③学校運営協議会を核とした日常的な連携	・本校に入学してよかったと思う生徒・保護者の割合	90%	B	・「本校に入学してよかった」 学校生活アンケート 生徒 96.5% 保護者 96.8% ・3学期に行った授業参観日は、62.4%の保護者の参加があった。	総務部
			・保護者・地域関係者の学校支援活動参加数	保護者数のべ 70%以上			

【評価結果の分析】

- ・みよし学園（小中一貫事業）における交流活動として、保護者や地域の方々と共に合同のあいさつ運動や、一斉ボランティア清掃活動や中学校の教員が小学校へ出前授業をすることができた。また、2月に実施した立志式には、校区内の小学校6年生や来年度学校再編で一緒になる君田小学校6年生や君田中学校2年生も一緒に参加して行うことができた。
- ・コミュニティ・スクールにおいての地域連携を活かし、地域社会との共創を目指して総合的な学習の時間を中心に地域の方々を講師に迎えての探究活動やみよしふれあいフェスタ等への地域参画を積極的に行った。
- ・「本校に入学してよかった」と回答した生徒・保護者の評価については、高い水準を保っている。
- ・各種通信やtetoruによる情報発信は月1回以上実施している。ホームページ更新も定期的に更新している。また、3年生の総合的な学習の時間で広報グループが三次中学校の地域社会との共創を目指した地域参画への取組を広報「みよし」やケーブルテレビ、三次観光推進機構（みよしDMO）等のSNS等を利用して学校の取組について積極的に情報発信することができた。

【今後の改善方策】

- ・今後も、保護者、地域からの学校教育活動に対する支援を頂けるよう、各種通信やメディアを通じた情報発信を続け、学校への満足度・信頼度の向上を図る。